

平成28年度 まちづくり懇談会（タウンミーティング）議事録

会議名	かわじま未来塾とのまちづくり懇談会（タウンミーティング）
開催日時	平成29年1月30日（月）午後7時05分～8時25分
開催場所	川島町役場 町長室内
公開・非公開の別	公開 ・ 非公開 ・ 一部公開
非公開の理由 （非公開の場合のみ）	個人を特定する情報については非公開とする ※「まちづくり懇談会実施要領」 10 懇談内容の公表 町民に対して積極的な情報提供を行う観点から、懇談会における懇談内容は、団体名や個人名を特定しない形式で、町広報紙や町ホームページで公開する。
議 題	かわじま未来塾の活性化について
出席者	●町 : 飯島町長、政策推進課石島参事兼課長、政策推進課伊原主査、政策推進課品川主事、政策推進課秘書室柴生田主査 ●団体：かわじま未来塾（3名）
配布資料	なし
審議等の内容又は概要	
1 開 会	
2 自己紹介	
3 タウンミーティング「かわじま未来塾の活性化について」 ・今後「かわじま未来塾」で行う会議等の実施方法やテーマなど、今回のタウンミーティングで出された意見を取り入れるよう検討する。 ・情報発信は大きな課題。「かわじま未来塾」での検討テーマとしていく方向を図りたい。	
4 閉 会	
質疑応答・意見提案 ※フリートーク形式で実施	
町長：当町の課題のうちの一つに、人口減少、少子高齢化が挙げられる。しかし、昔は人口1万5千人くらいでもうまくやっていた。何が良かったかと言えば「人と人とのつながり」だと思う。年配の人たちの考え方など、次世代を担う若者にその思いを知ってほしい。今の人たちにその考えや思いを伝える仲介役となれるよう、「かわじま未来塾」を立ち上げた。これから川島町が伸び行くためにも、インター南側開発を行い、雇用機会の増加、税収増などを図っている。もっと町が活性化するために、皆さんの闊達な意見を聞きたい。	
団体：先日行われたイルミネーションはとても良かった。家族や職場内でもとても好評だった。もっと長期間実施して欲しかった。	

団体：私もイルミネーションを見に行った。遅めの時間に行ったが、割と人がいた印象。「期間限定」だから良かったのかもしれないけれど、もう少し長い期間実施して欲しかったと思った。

町長：町には、春、秋のイベントがあるが、冬にはイベントがないので、人が集まるイベントを実施したいと思っていた。イルミネーション実施にはお金がかかってしまうが、今回国の交付金を受けて実施できた。

団体：イルミネーションを見に行った後すぐ、SNSで拡散したら、中学時代の同級生が「いいね」を押してくれた。せっかくイベントをやったのなら、もっとSNSを活用すれば、いい宣伝になると思う。

団体：最近、若い女性の間で「もんじゃ焼き」が流行っている。川島はうどんが有名だから、「うどんもんじゃ」を開発してはどうかと思いついた。川島はこれといった名物がないから、そこを逆手に取って新名物を生み出して流行らせればよいと思う。また川島は野菜が多く採れるので、もんじゃの中に川島産の野菜も入れて、川越辺りでPRしていけばよいのではないかと思う。

(町)：そのような「6次産業化」について取り組んでいる最中。ブームを作るのは女性だと感じている。女性が関心を持てばそこに男性がついてくる。だから女性が関心を持てるような商品を考えたい。

団体：川島のいちごは味が良いと感じている。帝国ホテルなど名のあるところで使ってもらえるよう売り出してみるのはいかがでしょうか。

(町)：若者は、そのような情報を広げていくのがとても得意だと感じているが、何か思う部分はあるか。

団体：インスタグラムの情報発信力は強いと思う。町はインスタグラムをやっているか。もしやっていないなら、取り組んでみてはどうか。今、中学生でもやっている人は多いし、何らか反応が得られるのではないだろうか。

町長：例えば、ネット上で「バーチャル川島村」みたいなものを造ったら流行るだろうか。他にもどんなツールがあったら人は喰い付くだろうか。

団体：以前にポケベルを作っていた会社で、今、防災ラジオを作っている会社がある。そのようなツールを用いた情報発信も必要ではないか。

団体：他市町村が作製した災害時用パンフレットを見たことがある。とてもカンタンな文章やイラストなどで、とても分かりやすかった。川島でもそのような物を作れば、それ自体が話題となるのではないだろうか。

団体：PR、古典的な方法もないがしろにできないと思う。私は余りネットツールなど得意ではないので、町に関する情報は割りと広報紙で得ている。広報紙で目に留まるのは、自分と同じ世代、若い人などが写真などで掲載されている記事など。広報紙は、町内の若者をもっと取り上げて、町に若者が「いるよ」とPRしたら良いと思う。

団体：女子高生はアイデアを生み出すことに長けている。例えば何か一つの写真を見てもらって、そこから思いつくアイデアを出させるなどの企画をすることなどもできると思う。

(町)：いろいろなアイデアや企画など、「話しやすい」と思う環境はどのようなか。

団体：様々な年代が混じった話し合いは、緊張はするが意外と意見を出しやすい。

団体：テーブルや机がないほうが話をしやすいと感じる。

団体：話をしやすい環境というのはなかなか難しい。単に話し合っただけで、その場で盛り上がった方がいいが、それを形にするととなると、個人情報や著作権などの問題があつてなかなか情報共有をしにくいなど弊害を感じることもある。

団体：情報の発信について、古典的かもしれないが、ポスターなどはどうか。若者だけでなく、年配の人にも目に触れると思う。ママ年代の人たちはよく出かけるが、それらの情報は（ママ達の）職場で収集することが多い。その場で口コミで触れ込むことなども多いので、できるだけ多くの人、多くの年代の眼に留まるよう、病院やスーパーのレジ付近など、目につきやすいところにポスターを掲示したらどうか。

(町)：確かに、ポスターを作っても掲示するのは殆どが公共機関。ていねいさが足りなかったかもしれない。

団体：以前、熊本新幹線開通イベントとして、熊本のゆるキャラ「くまもん」が県外へ出て「くまもんを探そう」という内容を実施したことがある。かわべえ・かわみんでもそのような内容を実施し、町外へ出て行ったらどうか。

団体：私の母が、役場の窓口等に備えているかわべえ・かわみんのぬいぐるみを欲しいと言っていた。せつかく作ったのなら是非販売して欲しい。かわべえ・かわみん、特にかわみんがカワイイと、家族や友人がよく言っている。

(町)：…。販売している。知られていなかったのかと思うと、やはりPRが足りないと感じる。

団体：町をPRするには、とにかくインパクトのあるキャッチコピーを作るべき。

町長：やはり、情報発信、アイデア抽出は今後の課題。どうしても町の職員は苦手。若者のアイデアに期待したいところ。是非今後、「かわじま未来塾」で情報発信等について考えていってもらいたいと思う。

団体：今日、「かわじま未来塾」に初めて関わったと感じている。気にはしているが、忙しかったり、何となく参加しにくい雰囲気だったり、なかなか参加につながらないのも現状。例えば今日のミーティングの内容を、LINEなどで「かわじま未来塾」メンバーに発信してもらえないか。そのようにフィードバックしてもらえれば、参加しやすく感じる。情報発信は、LINEなどだったら見ようと感じる。

団体：会議の通知などは、通知文でもらえるほうがよい。

団体：いずれにしても、「かわじま未来塾」はまだ始まったばかり。時間をかけて活動していってもらいたいと思う。